

住民意見反映のあり方について

平成16年8月
第12回揖保川流域委員会

揖保川流域委員会の設置目的

「揖保川河川整備計画の案(直轄管理区間)」の策定にあたり、

- ①河川整備計画の原案について意見を述べる
- ②関係住民意見の反映のあり方について意見を述べる

住民意見の反映の流れ

●住民意見反映の過程

河川整備計画について知ってもらう



住民の意見を聴く



河川整備計画に意見を反映する

、 、 の各段階における方法と流域委員会の役割

当委員会でこれまでに審議された方向性

●河川整備計画策定時の住民意見反映のあり方

1. 「流域の声」の全面的反映
2. 上、中、下流域ごとの意見集約
3. 具体的な計画地点での重点的な意見集約
4. 自治体等との意見調整
5. フォーラム等の開催

「揖保川流域委員会 提言 章」より

住民意見聴取の方法

<直接的方法>

- シンポジウム・フォーラム
- 公聴会形式の集会
- 対話集会
- ワークショップ 等

<間接的方法>

- アンケート
- 意見募集
- パブリックコメント(ホームページ等活用) 等

事例の紹介

シンポジウム フォーラム	■ 淀川水系流域シンポジウム
公聴会形式の 集会	■ 揖保川を語り、生かす集い ■ 淀川水系河川整備計画基礎原案 【説明会 & 意見交換会】
対話集会	■ 淀川水系流域委員会意見書に もとづく円卓会議
ワークショップ	■ 宮の川づくりワークショップ (栃木県宇都宮市) ■ 安間川河川整備構想コンセンサ ス会議(静岡県浜松市・浜北市)

シンポジウム・フォーラムの例

淀川水系流域シンポジウム(平成14年6月)

- 淀川水系流域委員会主催
京都会館第二ホール 455名参加



出典:「淀川水系流域委員会資料」より

シンポジウム・フォーラムの例

淀川流域シンポジウム プログラム

- 開会あいさつ 淀川水系流域委員会委員長 芦田和男
- 『淀川水系流域委員会からの報告』
- 『パネルディスカッション』

パネリスト

遙洋子(タレント)
池淵周一(委員会委員)
嘉田由紀子(委員会委員)
川上聡(委員会委員)

コーディネーター

近藤三津枝(ジャーナリスト)

出典:「淀川水系流域委員会資料」より

公聴会形式の集会の例

揖保川を語り、生かす集い(平成15年5月)

- 上、中、下流の3会場を実施 計291名参加



龍野会場



網干会場

公聴会形式の集会の例

「揖保川を語り、生かす集い」

- 意見の募集
新聞折込チラシで「これからの揖保川の整備」について
意見を募集
- 意見発表
意見を提出された方の内数名(5～12名)が意見発表
- 意見交換
会場に来られた全員で意見交換

淀川水系河川整備計画基礎原案 説明会 & 意見交換会(平成15年10月)

- 開催場所

大阪 / 京都 / 大津 /
木之本 / 守山 / 川西 /
池田

- 参加者

7会場合計 345名



大阪地区の様子

出典:「近畿地方整備局ホームページ」より

淀川水系河川整備計画基礎原案 説明会 & 意見交換会

<プログラム> (大阪会場)

- 河川整備計画基礎原案についての説明
河川管理者より計画の内容についてスライドを使って説明
- 流域住民と担当者との意見交換会
意見交換会の参加申し込み時にもらった意見から主要なものを紹介、それに対し河川管理者が答えるという形式で意見交換。

出典:「近畿地方整備局ホームページ」より

対話集会の例

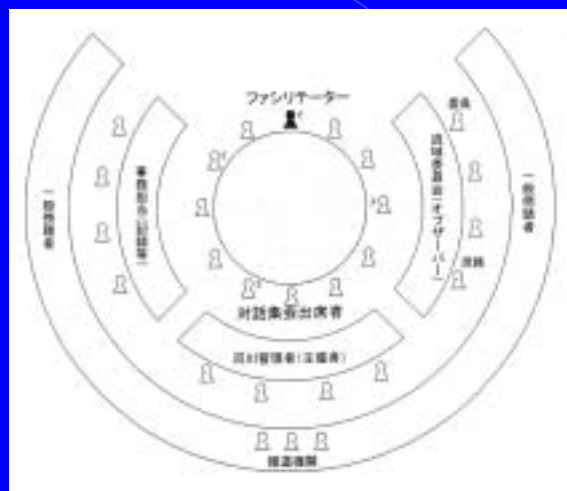
「淀川水系流域委員会 意見書 より」

- 円卓会議形式で行う
- 住民と河川管理者、住民同士、住民・河川管理者・自治体代表等の間の対話を通して、相互理解を図り、互譲の精神を醸成する
- ファシリテーター(対話進行者)による会の運営
 - ・対話進行を担い、すべてに対して中立・公平を保つ
 - ・場合によっては多様な意見をとりまとめて意見集約と一定の結論を導くことが求められる

出典：「淀川水系流域委員会意見書」より

対話集会の例

対話集会イメージ図



出典：「淀川水系流域委員会意見書」より

淀川水系河川整備計画策定に向けて 「河川敷保全と利用の方向性について」円卓会議

(平成15年11月)

大阪会場、京田辺会場、枚方会場、京都会場で実施



京都会場



大阪会場

出典：「近畿地方整備局ホームページ」より

淀川水系河川整備計画策定に向けて 「河川敷保全と利用の方向性について」円卓会議

<プログラム>

- 会議の趣旨説明

ファシリテーターの紹介とともに、円卓会議開催の経緯、会の進行法等について説明

- 発表

事前に意見を提出された方より5分程度で要旨を発表

- ファシリテーターの進行による意見交換

意見発表者、会場に来られたフロア参加者が全員で意見交換。必要に応じてファシリテーターが議論を誘導し、議論のまとめもファシリテーターが行う。

出典：「近畿地方整備局ホームページ」より

ワークショップの例

「ワークショップ」とは？

< 広義の意味 >

講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者自ら参加・体験して共同で何かを学びあったり、作り出したりする学びと創造のスタイル。

< 狭義の意味 >

(まちづくりなどにおいて)何かアイデアを出し合う、意思決定をする、問題を解決することなどを目的とし、誰もが意見を言いやすいように工夫された、グループの創造行為と合意形成に焦点をおいた会議の一種。

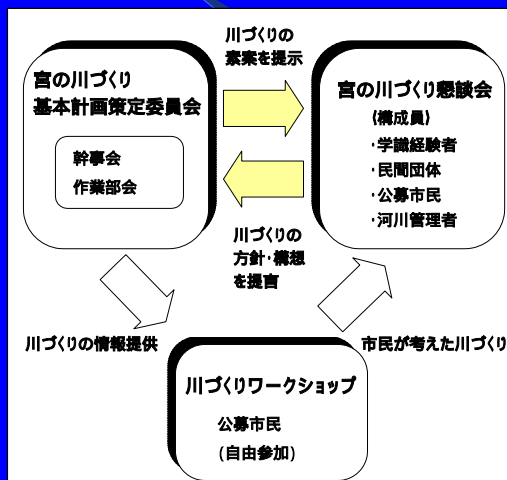
出典：国土交通省中部地方整備局「未知普請ワークショップ指針」より

宮の川づくり基本計画の策定

ワークショップの例

- 宇都宮市の管理河川についてまちづくりや市民との連携を視野に入れた河川の整備計画
- 市民参加による計画づくりを推進するための仕組みとして、「川づくりワークショップ」を実施

宮の川づくり基本計画参加の仕組み図



出典：「栃木県宇都宮市ホームページ」より

ワークショップ開催概要

- 第1回 宇都宮の川の現状と課題
- 第2回 フィールドサーベイ(現地調査)
- 第3回 宇都宮の川の将来像
- 第4回 川づくりのアイデア

出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

ワークショップのルール

- 批判は禁物 (良い悪いは判断しない)
- 質より量 (たくさん意見を出しましょう)
- 結合改善 (他人の意見に便乗しましょう)
- 自由奔放 (発表は自由奔放に)

出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

グループ討議

【宇都宮の川の良いところ / 悪いところ】

・意見を書いたポストイットを模造紙に貼り付け、問題点を整理



出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

グループ発表

【宇都宮の川イメージ】

・模造紙を使い、グループで考えた「川のイメージを発表」



出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

フィールドサーベイ(現地調査)

- ・参加者全員で川の様子をウォッチング
- ・調査箇所ごとに視点(キーワード)を設定



キーワード: 農業用水、自然環境 他



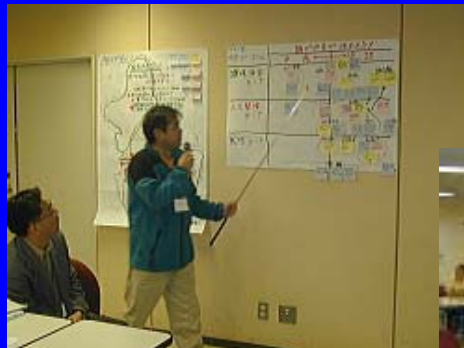
キーワード: まちづくり、区画整理 他

出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

グループ作業

【川づくりの将来像を提案しよう】

- ・第4回ワークショップでは、各グループで宇都宮の川の整備方向を治水・利水・河川環境面から検討し、提案



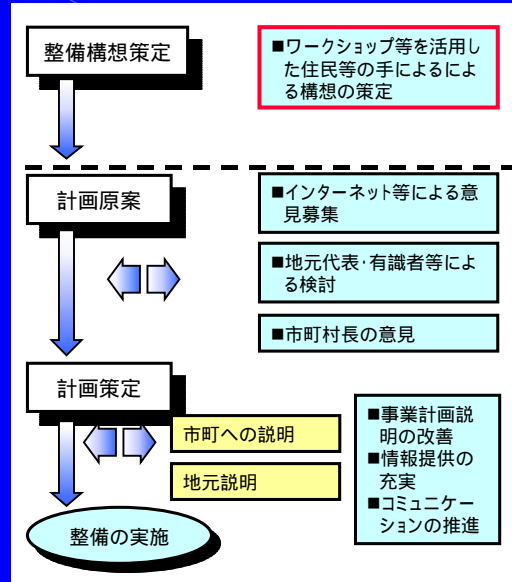
出典:「栃木県宇都宮市ホームページ」より

安間川河川整備構想

ワークショップの例

河川整備計画策定手続きにおける位置づけ

- 河川整備計画原案の提示の前段階で地域住民の意見を集約した川づくり構想をとりまとめ、整備計画に反映させる



出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

安間川河川整備構想

ワークショップの例

構想策定の経緯

- 各種イベントによる意見収集と現地調査
 演劇ワークショップ
 地球ボールの巡回
 写真撮影会(良い景観や問題のある箇所の掘り起こし)
 植物観察会 & 水質調査会
- コンセンサス会議による検討(全12回)
- 安間川河川整備構想の提案

出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

演劇ワークショップ

安間川の課題を劇に仕立て問題提起、住民間で議論



演劇ワークショップによる論点整理の様子

出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

地球ボールの巡回

直径2mのボールに住民が自由に意見を記入



出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

植物観察会 & 水生生物調査

現地で希少種生物の確認、水質の分布調査



水生生物調査

出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

コンセンサス会議

- NPOがコーディネーターを担当
- 生活者としての住民代表と専門知識を有するアドバイザーで構成
- 12回の会議を開催

現状と課題整理

望ましい姿

配慮事項整理



コンセンサス会議の現状分析の様子

河川整備構想とりまとめ

出典：「静岡県浜松土木事務所ホームページ」より

各集会形式の特徴

シンポジウム フォーラム	公聴会形式の 集会	対話集会	ワークショップ
<ul style="list-style-type: none"> ・イベント的な要素があり、より多くの住民の参加が期待できる。 ・河川整備計画策定の取り組みを、より広く知ってもらうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの意見を聴取することができる。 ・河川整備計画の内容についての理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を明確にした議論が可能であり、意見交換により参加者相互の理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの活動により、参加者の総意を具体的なプランや提案としてまとめることができる。

審議の論点(1)

揖保川の流域社会、揖保川の河川整備の特性を踏まえた、次のような事項のあり方

- 集会の形式
- 直接的方法(集会方式)と間接的方法(アンケート等)の組合せ
- 実施体制
 - ・委員会 / 河川管理者の位置づけ
- 広報についての考え方
 - ・より多くの方に参加してもらう効果的な広報
- 意見反映についての考え方 など

審議の論点(2)

- 集会の具体的方法
 - 集会のテーマと位置づけ
 - 開催場所
 - 各会場の対象者
 - 参加人数の規模
 - 主催者、進行者等の体制
 - 具体的プログラム
 - 意見聴取の方法
 - 意見交換の方法
 - 広報の範囲と方法